

「いざという時」の女性防火の役割

山梨県女性防火クラブ連絡協議会会長 中澤 智恵乃

私の住む塚原町は、甲府市の北部で、武田の森の近くで南に富士山を眺められる町です。

私の所属する塚原女性防火クラブは、昭和60年に140戸全戸の女性全員を会員として結成されました。私は平成10年に塚原女性防火クラブ隊長となり、11年間甲府市女性防火クラブ連絡協議会会長、山梨県連絡協議会会長を受けました。私が会長を受けました時には、休会するクラブが多く、私に課せられた役目はひとつでも多くの女性防火クラブを復活もしくは新たに発足させることでした。その後、周りの方々の協力を受け、3隊を新たに発足させることができました。



また、平成12年に島根県の益田市で小学6年生5人で川に遊びに行き、そのうちの1人が流され、それを見た他の4人のうち1人が約500メートル離れた家に駆け込み119番に知らせ、残り3人で流された友達を岸に引き上げ、人工呼吸法の処置をして救急隊員が到着したときには無事意識が戻っていたということがありました。その事件のあった益田市では夏休み前の17日に人工呼吸法の実践講習を実施したばかりであったという新聞記事を読み、地元相川小学校においても平成13年より6年生を対象として人工呼吸法の実践講習を行ってきました。現在の子供たちに命の尊さを実感してもらえたらと思っています。毎年講習を受けた子供たち全員から自分たちが感じたこととお礼の手紙としていただいています。

先日、私の住む塚原町内で火災があり、58歳の男性が焼死してしまいました。一酸化炭素中毒とのことでした。その日の朝、出火の知らせが入った午前2時30分は5月にしては肌寒く感じるほど寒い朝でした。私たち女性防火クラブ員は炊き出し訓練のおかげで、熱いお茶と温かいおにぎりを火災現場で消火に従事する消防隊員をはじめとした全員に配ることができ、女性防火クラブの役目を果たすことができたと思います。そして焼死の原因が火ではなく、一酸化炭素中毒の多い昨今の火事では防火（火の管理）に対する女性たちの意識を高め、住宅用火災警報器や消火器の正しい使い方などの普及にもっと努めなければならないと思いました。

今後も安心・安全で魅力あるまちを目指し、女性防火クラブの活性化のため積極的な活動をしていきたいと考えています。

(消防庁機関紙「消防防災／

2005-13・夏季号」より転載)

[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1. 第8回市町村婦人防火クラブ幹部地域研修会の開催](#)
- [2. 住宅用火災警報器の普及啓発（愛知県・茨城県・福島県）](#)
- [3. 住宅防火対策地区推進員研修会の開催（金沢市消防本部）](#)
- [4. 防災の日・救急の日の行事について](#)
- [5. 愛知県婦人防火クラブの愛知万博での行事開催について](#)